Ⅰ　大学の現況及び特徴

1　現況

（1）大学名　山形大学

（2）所在地　山形県山形市

（3）学部等の構成

学部：　人文学部，地域教育文化学部，理学部，医学部，工学部，農学部

研究科：　社会文化システム研究科，教育学研究科，医学系研究科，理工学研究科，農学研究科

附置研究所：　該当なし

関連施設：　保健管理センター，医学部附属病院，附属図書館，地域共同研究センター，学術情報基盤センター，遺伝子実験施設，高等教育研究企画センター，留学生センター，教職研究総合センター，附属博物館，放射性同位元素総合実験室，環境保全センター，大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー，附属小学校，附属中学校，附属養護学校，附属幼稚園

（4）学生数及び教員数（平成18年５月１日）

学生数：学部　8,138名，大学院　1,287名
別科　40名

教員数：　759名

2　特徴

本学は，昭和24年５月の国立学校設置法により，山形高等学校，山形師範学校，山形青年師範学校，米沢工業専門学校及び山形県立農林専門学校を母体として，文理学部・教育学部（山形市），工学部（米沢市），農学部（鶴岡市）を有する地域分散型の大学として発足した。その後，昭和42年６月の文理学部の改組に伴う人文学部，理学部及び教養部の設置，昭和48年９月の医学部（山形市）新設により，６学部１教養部を持つ総合大学に発展した。

平成８年４月の教養部廃止に伴い，教育面では，学生は入学当初から各学部所属となり，早くから専門科目に触れるとともに，高学年次においても教養教育を学ぶことができる４年（医学部医学科は６年）一貫教育の推進・充実に全学を挙げて取り組んできている。特に，全学体制で取り組んでいる教養教育の運営・実施は，総合大学としての利点を効果的に発揮しながら，十分な成果を上げてきている。

この間，全学部に大学院が整備され，現在では，修士課程として３研究科，博士課程として２研究科を有しており，岩手大学を設置校とする岩手大学大学院連合農学研究科に参画している。また，附属図書館等の教育・研究を支援するための関連施設が設置されている。

本学の特徴は，次のとおりである。

①　山形県内唯一の総合大学として教育・研究の中心的役割を担い，これまで多くの卒業生を社会に輩出しており，旧制諸学校時代からの地域社会との強い結びつきが保たれて，地域に根ざした大学づくりを行っている。

その実践例として，山形県で高等教育機関のない最上地域にソフト型キャンパス構想を展開し，学生の参加型人間教育と地域密着型研究を展開している。また，平成15年度「21世紀ＣＯＥプログラム」に採択された「地域特性を生かした分子疫学研究」があり，これは，長年に亘る地域保健関係者との共同による健康診断を基礎に立ち上げた分子疫学研究であり「地域に根ざし，世界を目指す」という大学のモットーを具現化したものである。

②　特定の専門的・職業的能力を有するだけではなく，総合的な判断力と豊かな人間性とを併せ持った人材を育成することが大学における教育の使命であるとの認識に立ち，特に学部段階の教育では，専門的能力の育成と総合的能力の育成とが共に等しく重要であると位置づけている。

③　教育理念を確実に実現するために，専門教育は，主として学部の専門性に適合した教育課程と環境において行う。教養教育は，学生の専攻する分野の違いを問わずに共通に行うべき教育として捉え，これらが最終的に学生自身において統合されることを理想に掲げている。

④　学生支援として，学習サポートルームを総合的に活用した「ＹＵサポーティングシステム」（学生支援）により，学生へのきめ細かい修学支援を図っている。

⑤　研究活動面における社会貢献は，社会と連携して共同研究を推進するだけでなく，大学の持つ知的資源を社会に還元するという意味においても重要である。地域貢献を推進する全学施設として地域共同研究センターを設置し，民間機関等との共同研究を更に推進し大学の活性化を図っている。

⑥　国際交流は，本学の将来構想における重要な課題と位置付け，アジアを中心とした諸外国の高等教育機関との交流強化を進めている。